# 自　己　評　価　結　果
# （2023 年度）

（2024.5.31）

学 校 法 人 川 原 学 園
東 京 動 物 専 門 学 校

目　　　　　次

１．はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

２．学校概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

３．教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

４．学業成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

５．学生支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

６．教育環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

７．学生募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

８．財務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

９．地域貢献・地域連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

１０．　表

表１　2023 年度　卒業生就職状況
表２　2023 年度中に学校主導で取得した資格
表３　過去５年間の自主退学者数と退学時期
表４　学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数
表５　八千代キャンパス　学生利用施設
表６　富里キャンパス主要動物舎
表７　富里キャンパス教材動物
表８　主要実習用設備、及び備品
表９　財務消費比較表（５カ年）

## １．はじめに

東京動物専門学校は、1987 年東京都三田に東京動植物専門学院としてスタートし、1990 年 3 月千葉県知事より設置認可を得て、学校法人川原学園、東京動物専門学校として開校し、同時に千葉県八千代市に八千代本校舎、富里市に富里実習施設を設置し、動物管理技術者を養成する専門学校として今日に至っております。

学校創設から 30 有余年が経過し、多くの卒業生が北海道から九州沖縄まで全国各地の動物園や水族館をはじめ、多くの動物関連施設にて働いております。

また、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度の新設に伴い、本学も 2014(平成 26)年 3 月にその認可を受け、職業教育やキャリア教育の充実に努めております。次の通り、最新の学校情報について公表いたします。

2023(令和 5)年 5 月のコロナ感染症の 5 類移行に伴い、学校も自主的な対応へと変化してきたが、今後とも、感染症予防対策は継続し実施いたします。

## ２．学校概要

### (1)校訓

東京動物専門学校の校訓は「心・知・技・体」です。これは、動物管理技術者に必要な仕事、または動物に対する正しい考え方(心)、最小限必要な知識(知)、基本的な技術(技)、及び健康な体(体) をバランス良く兼ね備えた技術者を育成することです。このうち、学校の授業で教授できるものは「知」と「技」であり、「心」と「体」は２年間の学校生活を通じての様々な体験より身に付くものであると考えております。

### (2)学校の歩み

① 学校誕生

東京動物専門学校は、川原鳥獣貿易株式会社が母体です。初代理事長川原義郎は、全国の動物園や水族館からの要望に応えて世界中から動植物の調達等を取り扱ってきました。その仕事を通じて、これらの動物の飼育現場には、動物に対する正しい知識と技術をもった人材がますます必要になると感じ、動物の飼育や看護の専門技術者を養成する学校を設立した次第です。

② 学校の概要

名称　　学校法人　川原学園　東京動物専門学校

住所　　〒２７６－００４６

千葉県八千代市大和新田１０９３番８号

TEL　０４７－４５９－０５１１（代）

フリーダイヤル　０１２０－０１０５２０

沿革　1987 年　4 月　初代理事長の川原義郎が東京都三田に東京動植物専門学院を設立し、開校
1989 年 12 月　八千代本校舎完成
1990 年　2 月　富里実習施設完成
1990 年　3 月　千葉県知事より専修学校の認可を得て、学校法人川原学園を設立し、東京動物専門学校と校名を変更
1990 年　4 月　東京動物専門学校開校
1992 年　3 月　本校新校舎完成
1993 年　4 月　学科を統合し、コース制を導入
2014 年　3 月　文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認可を受ける
2015 年　4 月　東京動物専門学校　動物管理科　各学年　140 名に学則変更
2018 年 12 月　富里キャンパスに、講義棟新設
課程　動物管理専門課程　動物管理科　動物飼育技術者コース

３．教育活動

⑴教科数、体系と目標

授業教科は２年間、４９科目数、８７単位で構成されております。２年間での総授業時間 2451 時間で、内講義は 945 時間、実習は 1506 時間。詳しくは、職業実践専門過程の基本情報をご参照下さい。

2016 年より 1 学年を対象に、上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園を専門講師の案内による特別案内授業を開始したが、新型コロナウィルス感染症の影響により団体入場不可など続いたが、感染症 5 類への変更に伴い、2023 年度は上野動物園・多摩動物公園・葛西水族園で実施した。更に、学外見学は 10 月に群馬サファリ、伊香保グリーン、なかがわ水遊園、大洗水族館に行き、各自課題を持ちながら、グループ別で行動・見学を実施した。進路決定の手助けになるよう、就職を目指した活動とすると共に、見聞も広めることが出来たと思います。

次に、施設研修（インターンシップ）は、２年次後期に実施しており、全員施設研修を終えました。職業教育協定書(事業契約契約書)を締結した事業者のもとで、基本は４週間（総時間数 182 時間）の動物飼育実習分野における実践的な職業教育を受けることになり、就職に直接結び付いたケースもありました。12 月には、来年度研修を経験する１年生を前にして、77 施設延べ 105 名がパワーポイントを使用した「施設研修発表会」を行った。

⑵資格試験（各種資格）

潜水士／ダイビング、危険物取扱者（乙種）及び赤十字救命法救急員講習会、玉掛け技能講習、刈払い機取り扱い作業者について、取得方法の指導、試験についての相談、アドバイス等、資格取得講座を開設し希望者には受講させています。

⑶教職員

2023 年(令和 5 年)5 月 1 日現在の教職員数は３２名で昨年同様です。

教員数　２８名（本務　１１名　兼務　１７名）

職員数　　４名（本務　　４名　兼務　　０名）

（教職員研修）

教職員を対象として 2024 年 3 月に千葉県立高校の現職校長による研修会(講和)を開催した、演題は『高等学校の進路指導について』であり、現場での進路希望動向及び指導計画、最近の進路決定の傾向、及び志願者増への対策などであった。この講話を通じて、特に専門学校を希望する学生像などの理解を深めることができ、当校に入学した新入生の対応など最新情報をもとに、幅広く活用することができる。

４．学業成果

⑴就職指導

① 就職指導の方法

本校での就職指導は、大別して３つの方法で行っております。

第一の方法は、全体指導です。１学年に入学した時点から、全学生に「就職のしおり」を配布すると同時に、教育課程の進行状況に合わせて就職に対する準備の方法を指導しております。

第二に「就職ガイダンス」という就職窓口を、学生課が週１回の割合で授業時間を設け、個人的に就職の相談に応じております。

第三は、２学年後期（実践段階）に行われる施設研修です。学生が具体的にその施設の内容を理解し、時には就職を希望する施設（企業）を決定し、学校が職業教育協定書の締結及び研修の申し込みをし、許可取得後、約４週間にわたって研修・実習するものです。

また研修終了後、全学生と教職員にその成果を報告する発表会を約１週間にわたり、開催し、研修施設の情報を全校で共有しています。

専門学校での学びとは、就職することと結びついていることであり、就職指導は最も重要な業務です。さらに、学生には専門知識・技能を学ぶことの大切さを絶えず教示しております。

② 就職状況

表１に 2023(令和 5)年度卒業生の就職状況を示しました。コロナ後の就職活動であり、2023 年度卒業 105 名(就職希望者 101 名)で就職者数は 99 名 (98%)です。(2024 年 3 月 31 日現在)

就職先は動物関連外 7 名を除き、92 名は動物関連業種であり、動物園、水族館 47 名(前年 49 名)で、ほぼ前年なみでした。酪農畜産関係は６名(前年 15 名)と大幅に減少しました。観光施設 7 名(前年 21 名)ペット販売業 5 名(前年 12 名)も大幅に減少、一方、実験動物・研究施設は 9 名と(前年 2 名)増加しました。

公立動物園として東京動物園協会(上野、多摩、井の頭)、横浜市緑の協会(ズーラシア)など、民間動物園として那須どうぶつ王国、群馬サファリや東武動物公園などが、主な就職先です。

(2)資格取得状況

表２に 2023 年度の学校主導で取得した資格状況を示しました。大半の資格は１学年次に取得しておりますが、一部の学生は 2 学年次にて取得しております。また例年実施している民間資格の赤十字救急法救急員の講習会は、コロナで一時中止した時がありましたが、2022 年度に引き続き全員取得しました。

(3)自主退学者の状況

表３に 2019 年より 2023 年までの 5 年間の学年次別、学期別に自主退学者数と退学率をまとめました。2022 年度入学生では、1 学年次 16 名、2 学年次 7 名の計 23 名であり、ほぼ例年並み?退学者数でありました、一方、2023 年度入学生では、1 学年次で 10 名(前期 4 名/後期 6 名)、2 学年次 3 名の計 13 名と前年に比し、ほぼ半減し、退学者割合も(18.5%→13.1%)と大きく減少しています。また、退学要因は、個人により様々ですが、進路変更も大きな要因であり、入学前の説明会などでしっかりと当学校の特徴を説明し、納得した上での入学を進めておりますが、退学者の発生防止は、なかなか困難ですが、一層の努力は必要と思っています。

５．学生支援

(1)学生相談

表４に、学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数を 2022 年度 2023 年度と並列して示しました。

総相談件数のほぼ半数を占める「出欠席」について、1 学年、2 学年とも前年よりも増加しました。また次に多い「定期試験」に関しても、両学年とも前年より増加しております。他の項目でも増減はあるものの、通常年と変わらない範囲です。

私生活関係では特に１学年に健康面での相談が多いのが例年でしたが、今年度は大幅に減少し、コロナの収束との関連も考えられます。

⑵経済支援

独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度

公的な奨学金制度を学生に紹介するとともに、懇切丁寧に相談に対応し、経済支援をしております。なお、従来から、支援機構などを利用できない場合等のために本校独自の特別奨学金制度を設けておりますが、ここ数年はほとんど活用されていないのが現状です。

６．教育環境

⑴八千代キャンパス及び学生利用施設

講義による知識の習得の場としての八千代キャンパスは、1989 年（本館）及び 1992 年（新館）に建設され、教室の面積によりコース別講義室(本館)と学科講義室(新館)に分かれております。

また学生利用施設として、自習施設（図書室)、福利施設としての学生ホールも備えている。詳細の面積等については、表５に示す。

学生数増加に伴い、教室内に大型 TV を設置し、映像による講義の効果を高めており、学生には好評です。

⑵富里キャンパス

表６に富里キャンパスの主要動物舎面積を示しております。主要動物舎は第１号より第２２号まで２２棟あり、そのほかに放飼場、馬場、馬放飼場、付属農園があります。これらの動物舎は、本校の学生が動物舎の構造を実際に理解できる目的で、学生等の実習を兼ねながら手造りしたものが多く、体験実習の成果であります。また展示施設ではなく、あくまでも飼育施設であり、動物福祉に配慮した構造としております。

表７には、富里実習施設において飼育している教材となる動物を、哺乳類から鳥類、は虫類、両生類、魚類まで 223 種類 1,349 点（2024 年 3 月末）動物園や水族館等で飼育されているような多くの動物が実習に供されています。

⑶実習用設備及び備品

主要実習設備及び備品を表８に挙げました。基本的な備品の整備に努めています。

⑷防災対策

７月に八千代キャンパスにて、八千代市消防署の協力を得て、火災防災訓練、１２月には地震防災訓練を学生及び教職員全員を対象に、実施いたしました。

## ７．学生募集

### (1)情報提供

①有料広告（４社)、②無料広告（3 社）③インターネット（ホームページ・Twitter・YouTube・X）により資料請求及びオープンキャンパスの予約を容易にし、学校の最新情報を随時更新しています。

また東京動物専門学校案内「2024 年度版」を２６ページと昨年度より増ページとし、学校生活やカリキュラム、就職情報等を満載し、更に、見出しを付け、開きやすいように工夫し、資料請求者に対して郵送するとともに、全国の約 4800 高等学校の内、約 4724 校に、学校案内書を送付しております。

### (2)オープンキャンパス

① 学校説明会（八千代キャンパス）

今年度は、在校生１名の参加を加え、より身近に学校及び学校生活全般の説明をしており、入学試験、学費、就職などの多くの各種質問も受けています。

また校舎内外の見学も併せて実施し、学校内容を充分に理解、納得した上で試験に臨むよう入学希望者に説明しています。この説明会は土曜日開催で、今年度は 17(昨年度 17)回開催しました。

② 体験入学（富里キャンパス）

今年度より６班（動物園・水族館・馬・観光牧場、酪農・猛禽・ペット動物）に分け、希望の飼育実習の一部を体験してもらった。この体験入学は、5 月から９月と３月の日曜日開催で 11(昨年度 8)回開催しました。

③ 施設見学（富里キャンパス）

施設見学は実習施設である富里キャンパスで開催し、在校生によるショー見学（猛禽ショーまたは水族のショー)、放飼場や動物舎を案内し、富里キャンパスでの学生生活を想像していただけます。今年度は 5(昨年度 6)回開催しました。

④ 授業見学

八千代キャンパスにて実際に学生が学ぶ様子を見学するもので、学校の雰囲気を体感することができます。また休憩時間には、在学生と話すこともでき、若者同士による情報交換の時でもあります。授業見学は月～金曜日、前期土曜日に開催される社会学概論など、事前予約にて実施、参加者は 6(昨年度 5)名でした。

(3)高等学校(ガイダンス)訪問

関東圏には約 1194 校あり、その内、学校や進路業者などからのガイダンス依頼数は 159 校に上り、参加してきました。また、近県の高校 274 校（昨年度 188 校）へは庶務課や学生課の職員が直接訪問し進路担当の教員と面会。学校案内などを利用し情報提供をするとともに、学生の進路相談時の学校紹介などについて依頼しております。

８．財　務

表９に財務消費比較表にて 2019 年度より 2023 年度までの過去５カ年分を示しました。2021 年より 2023 年まで定員に対する在籍者数は 100%を割りました。その要因は入学者の減少によるもので、全国各地からの入学希望者の減少でコロナの影響及び経済的要因によるものです。一時的と思われたコロナ影響による減少も、ほぼ収束した 2024 年度の入学者も減少しており、まだまだ予断は許せない状況です。

学校経営は、大半が固定的経費です。今後共、経年劣化する建物の維持管理費の捻出のためにも、入学生の確保は、専門学校の維持管理上でも最重要事項ですが、経費の節約も大切なことです。

９．地域貢献・地域連携、その他

(1)学校祭

2023 年 9 月 22 日から 24 日までの３日間、八千代キャンパス及び校庭にて第 35 回学校祭を開催した。新型コロナの 5 類移行で規制はなくなり、コロナ以前の規模での学校祭となり 3 日間で 10,399 名の参加者を得ました。2 年生より 1 年生への伝承、継続のため、開催することが必要と考え実施しております。地域住民をはじめ、保護者の家族や卒業生が誘い合って来場し、楽しんでいる様子を毎年繰り返しており、学校祭の果たす役割の大きさを感じています。夏休みを返上し、また夜遅くまで準備など学生にとって負担も大きのですが、2 年間の学生生活の一番の思い出となるとともに、地域の人々に一層喜ばれるよう地域貢献を継続していきます。

(2)ホームカミングデー2023

2023 年 12 月 9 日、ホームカミングディ(同窓会)を冨里実習場にて数年ぶりに卒業生及びその家族 600 名を迎えて実施した。卒業生にしてみれば 2 年間を過ごした懐かしい実習場で多くの動物達や友達との再会を果たし、在校生が作る食事にお腹を満たし、学校祭とは違った雰囲気での場となりました。僅か 2 年間の専門学校で、このような同窓会を開催できるのは、動物と名物場長の存在があります。

(3)新型コロナウィルス感染症のその後

2020 年 1 月の新型コロナ感染症の確認を発端に、ウイルス変異や感染者数の増減

など大きな波に翻弄されたが、やっと、2023 年 5 月には感染症 5 類に変更され、自主的な予防対策のみとなった。

しかし今後とも、このコロナを含め感染症対策は、本校の最重要事項として、位置づけ、様々な授業を通して学生には正しい知識を与え、様々な感染症に対応していく所存です。

(4) シンポジウムの開催

2024 年 1 月に、「国立動物園を作る会」と共催で、本校大教室で、シンポジウムを開催しました。テーマは「動物園はどのような人材を求めるか」であり、本校にピッタリのテーマでありました。各講師から様々な、ある意味、理想過ぎて、あり得ない人物像が飛び出したり、また、会場の本校学生から、多くの質問があり、あっという間に終了し、学生にとって、普段の授業とは異なった、刺激が多い経験になったようです。参加者は、ズームを含め、600 名超えで、これは、国立動物園を作る会主催のシンポジウムの中でも、かなりの人数とのことでした。

期待される飼育係員像
好奇心
想像力
行動力
執着力
動物飼育
すべて担当
教育分野
飼育環境
飼料計画
動物福祉
受診動作訓練
診療補助
記録保存
情報収集
共同研究
イベント
学校教育
情報発信
博物館連携
情報収集
新施設の基本設計
変化・バランス
自己評価
笑顔で
飼育他園館
世界の文献
生息地調査
捕獲・導入
生息環境調査
野生復帰
飼育・受診・解剖・保存
高校・大学・研究機関
クイズ・写真・写生・俳句・講演会
出張授業・実習・飼育指導・貸出
ガイド・ホームページ・機関誌・
YouTube
動物園教育研究会＝開かれた団体
飼育に
喜びを
飽きない
CH02

# 表１　２０２３年度　卒業生就職状況

２０２４年　５月３１日現在

**卒業者数　：　１０５名**

**就職希望者数　：　１０２名**

**就職者数　：　１０２名**

**就職率　：　１００％**

| 就職先分野 | 企業数 | 求人数 | 就職者数 |
|---|---|---|---|
| 動物園 | ５３ | １１１ | ３８ |
| 水族館 | ２４ | ３７ | ９ |
| 観光施設 | １２ | ２８ | ７ |
| 馬育成・管理 | ６ | ５８ | ２ |
| 酪農・畜産 | ３４ | ９１ | ６ |
| 実験動物・研究施設等 | ８ | ４５ | ９ |
| 動物病院 | ４４ | ５５ | ３ |
| 愛玩系動物販売 | １２ | ６０ | ６ |
| 動物訓練 | ９ | ２０ | ３ |
| 動物ふれあい施設 | ６ | １２ | ７ |
| その他動物関連 | １３ | ４６ | ４ |
| 動物関連外 | ６ | ８ | ８ |
| 総合計 | ２２７ | ５７１ | １０２ |

**主な就職先**

| | |
|---|---|
| 動物園 | 長野市茶臼山動物園、飯田市立動物園(*)、東京動物園協会[恩賜上野動物園・多摩動物公園・井の頭自然文化園](*)、えどがわ環境財団、横浜市緑の協会[よこはま動物園ズーラシア](*)、智光山公園こども動物園(*)、あらかわ遊園、浦安市交通公園、那須どうぶつ王国、那須ワールドモンキーパーク、那須サファリパーク、宇都宮動物園、群馬サファリパーク、東武動物公園、富士サファリパーク、伊豆アニマルキングダム、伊豆シャボテン動物公園、富士花鳥園、大内山動物園、姫路セントラルパーク |
| 水族館 | 仙台うみの杜水族館、マクセルアクアパーク品川(*)<br>すみだ水族館(*)、しながわ水族館(*)、葛西臨海水族園<br>鴨川シーワールド、幼魚水族館、琵琶湖博物館 |
| 観光施設 | 鷹山ファミリー牧場、南ヶ丘牧場、マザー牧場、東京ドイツ村 |
| 馬育成・管理 | ホーストレッキングファーム三浦海岸、NPO法人ホース・トラスト |
| 酪農・畜産 | サンハイファーム、㈲瑞穂農場、㈲ブライトピック<br>㈱ブッチーファーム、㈱安立ファーム |
| 実験動物・研究施設等 | 京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ<br>東京慈恵会医科大学、㈱ジェー・エー・シー<br>㈱ケー・エー・シー、㈱エーテック、三協ラボサービス㈱ |
| 動物病院 | 豪徳寺なみき動物診療所、２１動物病院、いしじま動物病院 |
| 愛玩系動物販売 | ペットの専門店コジマ、インコ・オウム専門店こんぱまる<br>㈱フローエンス、㈱ＳＡＧトレーディング<br>ＣＯＯ＆ＲＩＫＵ |
| 動物訓練 | ㈱鷹匠、㈲関空ペット、㈱ＫＡＮＡＤＥ高柳犬舎 |
| 動物ふれあい施設 | ㈱ＭＯＦＦ、ラブリー・アニモア、Dog Cafe Florence<br>ねこのす動物保護施設 |
| その他動物関連 | NPO法人ＴＳＵＢＡＳＡ、川原鳥獣貿易㈱ |

(*)印は、契約社員等又はアルバイト契約（更新条件付)

東京動物専門学校

## 表２　　２０２３年度中に学校主導で取得した資格

| 資　　格　　名 | 国家資格<br>民間資格 | の区別 | 取 得 者 数（人）<br>１学年次学生 | ２学年次学生 |
|---|---|---|---|---|
| 危険物取扱免許（乙種） | 国 | | ２７ | ０ |
| 潜　水　士 | 国 | | ２５ | ４ |
| 赤十字救急法救急員(※) | 民 | | ８８ | ０ |
| 玉掛け技能講習 | 国 | | ８７ | ０ |
| 刈払い機取り扱い作業者 | 国 | | ８４ | ０ |
| 小型船舶操縦士 | 国 | | ０ | １ |
| フォークリフト | 国 | | ０ | ０ |
| | | | ３１１ | ５ |
| | | 合　計 | 316 【2022年度　383 】 | |

## 表3　過去5年間の自主退学者数と退学時期

単位（人）

| 入学年度 | 入学者数 | 退学者合計<br>（退学者の入学者に対する割合%） | １学年前期 | １学年後期 | ２学年前期 | ２学年後期 | 留年者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2019年 | １４４ | １３<br>(9.0) | ５ | ２ | ５ | １ | |
| 2020年 | １４９ | ２４<br>(16.1) | １０ | １１ | ２ | １ | 特別コース１名 |
| 2021年 | １４８ | ２４<br>(16.2) | ４ | １２ | ３ | ５ | 特別コース１名<br>退学１年後期 |
| 2022年 | １２４ | ２３<br>(18.5) | ８ | ８ | ４ | ３ | 休学者１名 |
| 2023年 | ９９ | １３<br>(13.1) | ４ | ６ | ２ | １ | 休学者１名<br>退学２年後期 |

## 表4：学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数

| 内容＼学年 | 1学年（件） 2022年度 | 1学年（件） 2023年度 | 2学年（件） 2022年度 | 2学年（件） 2023年度 |
|---|---|---|---|---|
| **学校関係** | | | | |
| 学校生活全般 | 4 | 2 | 9 | 0 |
| 進路変更 | 10 | 3 | 3 | 1 |
| 友人関係 | 0 | 3 | 0 | 0 |
| 出欠席 | 67 | 78 | 54 | 76 |
| 定期試験 | 46 | 72 | 25 | 45 |
| 学外研修 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| **私生活関係** | | | | |
| 健康 | 23 | 10 | 6 | 0 |
| 私生活全般 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 将来への不安 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| **合計** | **150** | **170** | **97** | **122** |

## 表5：八千代本校舎　学生利用施設

| 校舎 | 用途 | 名称 | 面積［㎡（坪）］ | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| **本館** | コース別講義室 | 102教室 | 60.75　(18.37) | |
| | | 201教室 | 60.75　(18.37) | |
| | | 301教室 | 60.75　(18.37) | |
| | | 302教室 | 60.75　(18.37) | |
| **新館** | 学科講義室 | 103教室 | 60.325　(18.28) | |
| | | 203-1教室 | 120.65　(36.49) | 203-2教室と合わせて、教室として使用可。 |
| | | 203-2教室 | 120.65　(36.49) | 同上 |
| | | 303教室 | 279.30　(84.48) | |
| | 自習施設 | 図書室 | 33.77　(10.21)<br>蔵書数（2024年3月31日現在）<br>2,029　冊 | |
| 新館 | 福利施設 | 学生ホール | 112.825　(34.09) | |

表６：富里キャンパス主要動物舎

| 名　　称 | 面積［ ㎡（坪）］ |
|---|---|
| 第１号　動物舎 | １６７.２０（５０.５８） |
| 第２号　動物舎 | １０９.５０（３３.１２） |
| 第３号　動物舎 | １９３.９０（５８.６５） |
| 第４号　動物舎 | ２８１.４０（８５.１２） |
| 第５号　動物舎 | １８２.６０（５５.２４） |
| 第６号　動物舎 | ２７０.００（８１.６８） |
| 第７号　動物舎 | ２３６.００（７１.３９） |
| 第８号　動物舎 | １３２.２０（３９.９９） |
| 第９号　動物舎 | １３２.２０（３９.９９） |
| 第10号　動物舎 | ２０７.７０（６２.８３） |
| 第16号　動物舎 | ６７.５０（２０.４２） |
| 第17号　動物舎 | ３４.００（１０.２９） |
| 第18号　動物舎 | ３２.４０（9.８０） |
| 第21号　動物舎 | ５０.８０（１５.３７） |
| 第22号　動物舎 | ２０.９０（6.３２） |
| 牛　　舎 | ６４.８０（１９.６０） |
| 放 飼 場 | ３,３００.００（９９８.２５） |
| 馬　　場 | ２,０００.００（６０５.００） |
| 馬 放 飼 場 | ２,０６７.００（６２５.２７） |
| 付 属 農 園 | １７,０８８.００（５,１６９.１２） |
| 合　　計 | ２６,６３８.１０（８,０５８.０３） |

## 表7：富　里　実　習　施　設　教　材　動　物

| 綱 | 種 | 点　数 |
|---|---|---|
| 哺　　乳 | ８５ | ５９４ |
| 鳥 | １１６ | ６９９ |
| ハ　　虫 | ２０ | ５０ |
| 硬 骨 魚 | ２ | ６ |
| **合　　計** | **２２３** | **１３４９** |

（２０２４年３月末現在）

## 表８：検査用設備及び備品

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ACｰ 1ｼｽﾃﾑｹｰｼﾞ L型 | 1 | 28 | 耳鏡セット アンテナ付 | 6 |
| 2 | 入院用ケージ | 1 | 29 | 眼鏡セット | 1 |
| 3 | 体重計診療台 | 1 | 30 | ウッド灯 | 1 |
| 4 | 手術台 | 1 | 31 | 尿比重計 | 1 |
| 5 | 動物全身麻酔装置 | 1 | 32 | 卓上タンパク比重計 | 1 |
| 6 | 心電図モニター | 1 | 33 | タンパク屈折計 | 1 |
| 7 | ﾚｯﾄｹﾞﾝ ｼｽﾃﾑ | 1 | 34 | ヘマトクリットリーダー | 5 |
| 8 | ﾚｯﾄｹﾞﾝ ｶｾｯﾃ | 9 | 35 | 血球計算盤（３種類） | 17 |
| 9 | シャウカステン | 1 | 36 | 血値指数計 | 2 |
| 10 | グリット | 1 | 37 | 聴診器（学生用） | 20 |
| 11 | プロテクターグローブ | 2 | 38 | 聴診器（ﾘｯﾄﾏﾝ） | 2 |
| 12 | プロテクターエプロン | 1 | 39 | 上皿天秤 | 1 |
| 13 | 無影灯 | 1 | 40 | 電子天秤 | 1 |
| 14 | 保育器 | 1 | 41 | 骨格標本 | 1 |
| 15 | 内視鏡 | 1 | 42 | 模型（眼・耳） | 3 |
| 16 | 自動高圧蒸気滅菌器 | 1 | 43 | ＣＰＲ　ＤＯＧ | 1 |
| 17 | ガス滅菌器 | | 44 | 術衣・有窓布・無窓布 | 37 |
| 18 | ガス滅菌器　カスト | 1 | 45 | ｸﾞﾙｰﾐﾝｸﾞ台 | 17 |
| 19 | ﾍﾏﾄｸﾘｯﾄ遠心機 | 1 | 46 | シンク | 4 |
| 20 | 殺菌線消毒器 | 1 | 47 | ハンドドライヤー | 7 |
| 21 | 顕微鏡（ﾓﾆﾀｰ付） | 1 | 48 | スタンドドライヤー | 3 |
| 22 | 顕微鏡 | 27 | 49 | 毛刈り用バリカン | 6 |
| 23 | スケラー | 2 | 50 | シーラー | 1 |
| 24 | 輸液ポンプ | 5 | 51 | 術衣棚 | 1 |
| 25 | 輸液ポンプ | 5 | 52 | 器械戸棚 | 1 |
| 26 | 検眼鏡・耳鏡付 | 1 | 53 | 物置戸棚 | 1 |
| 27 | 喉頭鏡 | 1 | 54 | 備品戸棚・物品棚 | 8 |

## 表９　財 務 消 費 比 較 表（5ヵ年）

| | ２０２３年度 | ２０２２年度 | ２０２１年度 | ２０２０年度 | ２０１９年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業活動収入合計 | 300,600,042 | 354,835,486 | 382,215,233 | 402,090,496 | 382,568,951 |
| 基本金組入合計額 | 14,080,000 | 0 | 15,327,070 | 41,209,819 | 540,000 |
| 事業収入の部の合計 | 286,520,042 | 354,835,486 | 366,888,163 | 360,880,677 | 382,028,951 |
| 事業活動支出の部の合計 | 357,479,815 | 376,429,615 | 379,842,198 | 372,849,997 | 380,345,257 |
| 当年度収支差額 | △ 56,879,773 | △ 13,053,818 | △ 12,946,277 | △ 13,313,925 | 1,704,638 |
| 前年度繰越収支差額 | △ 441,489,724 | △ 428,435,906 | △ 415,433,468 | △ 402,119,543 | 403,824,181 |
| 基本金取崩額 | | | | | |
| 翌年度消費収支超過額 | △ 498,369,497 | △ 441,489,724 | △ 428,379,745 | △ 415,433,468 | △ 402,119,543 |
| 減価償却費 | 15,729,384 | 15,179,414 | 15,145,351 | 12,818,286 | 12,007,686 |
| 在籍者数（5月1日現在） | 207名 | 256名 | 275名 | 286名 | 273名 |
| 教員数（本務・兼務） | 28(11・17)名 | 28(11・17)名 | 28(11・17)名 | 28(12・16)名 | 28(12・16)名 |
| 定員に対する現員比較（%） | 73.93% | 91.43% | 98.21% | 102.14% | 97.50% |

自己評価に対する意見書

2024 年 5 月 31 日

学校法人　川原学園
東京動物専門学校
　学校長　北村　健一　　様

静岡県富士市厚原 1527-5
獣医師　片井　信之

東京動物専門学校は、1990 年千葉県知事より専修学校の認可を取得し、東京動物専門学校としてスタートし、その後、2014 年には文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認可を受け現在に至っており、開校 34 年を迎えます。特に、2020 年 1 月から 2023 年 5 月迄の長期に渡る新型コロナウィルス感染症対策でご苦労され、やっと 2023 年 5 月からの 5 類移行に伴い、授業方法や学校行事も平時に戻り、特に学校祭などでは、大いににぎわいをみせるようになりました。しかし、コロナウィルスが消滅したわけではありません。油断は禁物です。何時なんどき新たな感染症が発生するかもしれません。3 年間の対応実績なども総括・整理し、今後の危機管理に備えていただきたい。

１．教育活動

「職業実践課程」の一環としての「特別案内授業」は 8 年目を迎えます、2023 年度はほとんどの園館でコロナ規制がなくなり、この特別案内授業の開始時の園館、上野動物園、多摩動物公園、葛西水族園の 3 園館で実施しました。専門講師 1 名が交代し、動物園や水族館の動物の知識や仕組み、展示施設など幅広く専門講師にて解説を受け、その成果は学生の終了後のアンケートから読み取ることが出来ます。今後 2 年間に学ぶべき方向性を身に付けたことでしょう。また単なる見学だけでなく、動物研究法等の授業との連携で、将来動物園などで実施しなければならない「解説板を作ろう」「キーパーズトークをやってみよう」など実践的な学習成果は一段と高まったものと思います。

また秋に実施している学外研修は、群馬サファリ、伊香保グリーン、なかがわ水遊園、大洗水族館の 4 施設を訪れ、入学してから半年以上経過し、種々な授業を受けての見学であり、有意義な施設見学会になったと思います。

また 2 年生は、例年通り 10～11 月にかけて 1 か月間の施設研修があり、前年まではコロナ禍で研修先確保は困難だったようですが、コロナが収まった今年度は希望通りの研修先が見つかったようでよかったです。研修先施設からの評価表を見ますと、大半が良好な評価及びコメントをもらっており、また就職に結びついた学生もあり、施設研修の意義を感じます。

２．学修成果

就職状況について、2023 年度も 100%であり、動物園水族館にも 47 名が就職しており、希望がかなえられた学生が多いと思われます。なお、就職分野別でみますと、毎年変動が見られます。特に 2023 年度では観光施設、愛玩系動物販売、酪農・畜産が前年より大幅に減少し、実験動物・研究施設等が増加。学習内容も就職先にあまりこだわらず、動物関連の業種に対応できる学習内容に重点を置き、基礎から実践にと専門学校ならではの学修成果を得られる様期待をします。

自主退学者の状況は、2023 年度は前年に比べて退学者数、退学率とも減少しており、原因も様々

なようですが、せっかく夢を抱いて東京動物専門学校を目指してきた学生です。途中で挫折せず、卒業できるよう指導等を今後とも宜しくお願いします。

2024 年 3 月に行われた講師会で、基礎学力や技能の低い学生、学習に意欲が見られない学生等の話題がありました。講師の方々もノートの取り方などや、学生課職員が特別補講にて指導している旨の報告を伺い、今後とも学生に沿った指導・援助を継続的、根気よく行なわれるよう願いたい。

コロナ禍にて全国的な規模での入学者がなくなり、結果として入学者が減少しております。今後の動物を取り巻く業界の推移、また若者の将来志向動向に注視し、全国各地から入学者が集まるような東京動物専門学校になるよう願っております。

３．その他

2020 年 1 月に始まった新型コロナ感染症は、2023 年 5 月に 5 類に移行し、取り敢えず収まった模様です。しかしコロナの影響なのかどうか不明ですが、入学者減少という結果となっております。2024 年度入学者数も前年より減少、定員に対する現員比較は 2023 年度 74%となり、財務状況は厳しさを増しており、入学者の確保は大きな課題です。

私が生活する静岡県内では近年新たに動物専門学校が３校新設されています。少子化が進む中で、新設校が出来るという現象からして、動物関連の希望者はいると判断しているからと思われます。動物関連でも職種は広いものです。東京動物専門学校は、動物園・水族館への就職を大きくうたっているのですが、30 数年経過した現在、動物飼育管理専門を検討しなおす時期かもしれません。

（以　上）